

論文内容要旨

論文題目

産婦人科外来看護職を対象とした禁煙支援促進教育プログラムの
作成と評価

教育・研究領域：生涯生活支援看護学

氏 名：遊田 由希子

【内容要旨】

本研究の目的は、産婦人科外来看護職の禁煙支援を促進する教育プログラムを作成し、評価することである。

プログラムは、学習者のモチベーションの向上に役立つ ARCS (Attention Relevance Confidence Satisfaction) モデルに基づき構成し、自己効力感を高める内容を取り入れて作成した。東北 6 県の産婦人科外来に勤務する看護職 16 名を対象にプログラムを実施し、途中脱落の 2 名を除いた 14 名を分析対象とした。プログラム評価の得点は高く、禁煙支援に対するモチベーションの向上に貢献できた内容であった。プログラムの受講により、看護職の「禁煙支援に対する知識」、「禁煙支援に対する信念と態度」、「禁煙支援の自己効力感」、「禁煙支援の実践」は、実施直後、1 か月後に得点が有意に上昇したことから、産婦人科外来看護職の禁煙支援の促進に有効であった。同様の教育プログラムはこれまでに存在しなかったことから、本研究により初めて産婦人科外来看護職の禁煙支援を促進する教育プログラムを提示した。

令和4年7月15日

山形大学大学院医学系研究科長 殿

学位論文審査結果報告書

申請者氏名： 遊田由希子

論文題名： 産婦人科外来看護職を対象とした禁煙支援促進教育プログラムの作成と評価

審査委員：主審査委員 布施 淳子

副審査委員 齋藤 貴史

副審査委員 森鍵 祐子



審査終了日：令和4年 7月 15日

【 論文審査結果要旨 】

健やか親子21において2010年に「妊婦の喫煙率を0%」、「育児中の母親の喫煙をなくす」と目標を設定したが、現時点で達成されていない。海外では看護職による禁煙支援の効果が示されているが、国内では妊婦に対する禁煙指導法と推奨された方法での禁煙支援が行われておらず、妊産婦を支援する看護職を対象にした教育を行った報告はないことから、本研究では妊産婦と関わる機会が多い産婦人科外来看護職の禁煙支援に着目し、禁煙支援を促進する教育プログラムを作成し評価した。

教育プログラムは学習者のモチベーションの向上に役立つARCS (Attention Relevance Confidence Satisfaction) モデルに基づき構成し、自己効力感の情報源である代理的体験や言語的説得を取り入れ作成した。対象は東北6県の分娩取り扱い医療機関161施設のうち研究参加への応募があった産婦人科外来に勤務する看護職(助産師・看護師)16名である。調査項目は、基本属性、Smoking-Knowledge Attitude Practices (Kevin, 2019)を基に作成した、喫煙の影響に関する知識、禁煙支援に対する信念と態度、禁煙支援に対する障壁の認識、禁煙支援の自己効力感、禁煙支援の実践とARCSモデルによるプログラム評価とした。調査は介入直前(ベースライン)と受講直後、1か月後に行った。教育プログラムの介入および調査はすべてオンラインで行った。結果、途中脱落の2名を除いた14名で、経験年数は 22.4 ± 10.5 年、外来経験年数は 4.4 ± 2.6 年を分析対象とした。教育プログラムの受講によって看護職の「喫煙の影響に関する知識」、「禁煙支援に対する信念と態度」、「禁煙支援の自己効力感」、「禁煙支援の実践」は、受講直後、1か月後に得点が有意に上昇した。「禁煙支援に対する障壁の認識」は有意差が認められなかった。教育プログラムの評価は、「研修は自分に関係がある内容だと思った」、「研修は身に着けたい内容だった」、「研修をうけてよかった」等8項目中6項目で最高得点を示した。以上より、ARCSモデルに基づいた教育プログラムは、看護職の禁煙支援に対するモチベーションの向上と看護職の禁煙支援に関する知識、信念と態度、自己効力感、実践の改善に効果的に作用し、1か月後まで持続したことから産婦人科外来看護職の禁煙支援の促進に繋がること示唆された。

本研究について、論文及び口頭発表に基づき審査した結果、看護学に貢献できる新知見が含まれ、看護の実践に有意義であることから、本研究は学位論文(博士)に相応しいものとして評価した。